



弄苑  
六

特 別  
A12  
5090  
5



112  
5090  
5

<2001-058>





一まゝにうらひ

冷泉院の洞

寧ろ中ねり

紅梅を羨むうらな中ねりとは春の心

ふの中よそ

羨む心柳のあやむかひしすしんを

江のほとりらハマノ心

丁を思ひつゝ

空谷能ノ徳ハま出家志

又まをそ

冷泉院ノ世ヲてまのてしまらうハまを

ふれまふらふてり

は清信氏

聖三天皇侍アリ又ま任りりともをり

知してついで

中つ思ふに候もむきしとまのしとまはれは

あつけりともおしくおはれ

せし徳懐をくし

冷泉院のこころしりけはハま昇下の清也の徳

也かゆき老横川にそま居るをそまはつり 大和地法入新

まゝにこの来

羨ノ心申ラホマハナリ

中つ思ふに候も

嫌ふ心と思言ハ坊佛のこま

清信氏ハそらりり

こころしとまの心

高き心ノこころしとまのこころの秋りしとま

江のほとりら あな叶

そらりりし女

羨まむ心ハそらりりし女

所りともまの心ハそらりりし女

秋をすこつと

言事しすりつと念念心

そらりりし女

用と野中石田心

あやうりりし

あやうりりし心 列し候と

宗元まゝ

宗元まゝのうらみ

やゝあつね

宗元まゝ

わが志を

宗元まゝ

あつねを

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

宗元まゝ

あつね

あつね

あつね

あつね

あつね

あつね

あつね

あつね

世もよもし 世もよもし  
思ひすきいり 思ひすきいり  
たーく  
年ふらふらと

ふらふら

三条よりゆー

二待は 中三三のよむよむ

歩のたの柳本のよむよむ

よりかりあいら かりあいら

年ふらふらと

はつたふ酒とかりかりふらふらと

お梅エトよりお梅エト

お梅エトよりお梅エト

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

とらふらふらと

なまよびて ころあきりしきりて身のおく

思ひてしきりし

わきうらうらと くらぶのきし<sup>任</sup>てきたるうら

をばりてゆしりなりと

うしひちめ 唯まう橋唯しきりてゆりのま

つらうらわめりしきり

あふらん 川

ゆを梅まそ下しきを神あてりあふらん

思われしきり 草新しきり

ゆのまらし

らつをまらゆりくと くらぶの向

こたうしきり 言ふらん けりしきり

あふらん 言ひしきりてしきり

ゆをまらゆり 煮のるまらまら

流唯まのまらまらまらまら

とまらしきり

あふらん 言ひしきりてしきり

まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら

あふらん 言ひしきり

あふらん 言ひしきり

あふらん 言ひしきり

あふらん 言ひしきり

あふらん 言ひしきり



約指しめそてゆきし大さくふくろくふくろく  
下りる橋のまじりしきやゆきてしりしはの  
一足りりし年納うきし敷とくま月く又そそ共者  
夏冬文衣のりまき又時志つと共也

このねの気なり 一まのうしとよふりしあし  
ち申とらりめくまひいそとこ

しらそくは くらりの煙

あしきゆー 一ひきふりし煙うすしとをれ

別とくしむりきとてい

まののささくく 一ひきふりしをれとて共

甲子の辰也

いかりし 一まの階 ねまきの煙のりしとをれ

さうやとらりしとていしとていしとていし

ゆきとてい 用とらりしとてい

まつみとてい 一まのふ ねまきとていとをれ

今とてい

いさしとてい 一まのふ くらりのい

いさしとてい 一まのふ 柳木のけしとてい

いさしとてい 一まのふ カサとてい

いさしとてい 一まのふ 花の名園とてい

いさしとてい 一まのふ 柳木のけしとてい

いさしとてい 一まのふ 柳木のけしとてい

いさしとてい 一まのふ 柳木のけしとてい

いさしとてい 一まのふ 柳木のけしとてい

此の文は流石な世治りの 元仁天皇の

意の通る 平一の本

今一冊を 意の通る 一合巻

さくやえ 一冊の字 清濁茶

おきくせん ころの茶を 焼捨多て ちりふんじ

我れりく 一冊の字 柏木終の字

あつし 一冊の字 一冊の字 白をそのあふ

入る外は 柳とおはすとき 一冊の字

伝名女一冊 倉庫にのたまふ 母は仁孝下母は徹屋号

りの流石な 柏木の封じり

そんあふりん 病いじり 柏木之河は女三

まの字は 一冊の字 一冊の字 一冊の字

あつたしり

ゆい 一冊の字 一冊の字 柏木今め 一冊の字

とゆい 一冊の字 一冊の字

おきり 一冊の字 女三の字 一冊の字

一冊の字 一冊の字 一冊の字 源氏の字

あまは 意のり 一冊の字 一冊の字

一冊の字 一冊の字 一冊の字

まの字 一冊の字 一冊の字 女三の字

一冊の字 一冊の字 一冊の字

一冊の字 一冊の字 一冊の字

推古 卷之五 所り皇孫ニ春ヨリ次年

世三夏まのりし

うたへしとふく 我孫の都のふらこのちとむり

六条位らるるをりし 三

ありゆふ 今後位才難ふ心るをりし湯女位才

行ありしをりし治位と号と湯女位のふれさる

河内欽命ましくさ年位はく河内守あり

孝アこまは六条右大臣雅信の御ありし長徳

法皇崇峻白貫位志保才ありは治位六条位あり

トヤケルおひたり

太乙弁侍臣守あり 今又まのりのみせ也

ひりしのみ 美の心

かむしとより 美のあまげんじ

地もむののちの 美の海のきぶ社のふと

ありしと柳山とせとらあり

ふりし思ふをりしとらり 美は文いすらんや

多りたれとそふらまのりしとらそと又文魚

地もすりしと 川を 美

心風しとらと 美のふらとら

乙とら

ゆりりまのり 美の心とら

さ又ありし 美の心とら

一とらありしと 美

えりりめ えり海

ふらふらふら 唯志のあつらふらふら ねらのそらふら

とらふらとよらふら

あふらふらふらふら 暮れしすまれのふら

ゆらふらとよらふら

野とわらふらふら 川と河名ふら

ふらふらふらふら ね梅ふらふら ね梅ふらふら

と暮れふらふらとふらふらふら ね梅ふらふら

ふらふら

中くふらふらふらふら 暮れしすまれのふら

ふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふら 暮れしすまれのふら

ふらふらふら 暮れしすまれのふら

ふらふら

ふらふらふら 暮れしすまれのふら

暮れしすまれのふら 暮れしすまれのふら

暮れしすまれのふら 暮れしすまれのふら

暮れしすまれのふら 暮れしすまれのふら

ふらふらふら 暮れしすまれのふら

暮れしすまれのふら 暮れしすまれのふら

ふらふらふら 暮れしすまれのふら

暮れしすまれのふら 暮れしすまれのふら

ふらふらふら 暮れしすまれのふら

ん推しと

は時のせい 八ま今のせうと下り流し

わらうととん 禁中しぬ書 和宮中し

うとあうけ へん推しヤハスし

女うりりりせ 女うひりりと思推しと下り

丁と

丁とととと 意の何 管絃のそとさうらひ田推

又い今三三とに女のとくふらと下り

習ふし何海

うとくしとねととと 意へ推しと下り

習ふしとととととと

ゆりめとととと ひとりさうとと

たうしとととと 琴うらみとととと

うととととと 推しとととととと

すまひととと

のうしとととと 一白とととととと

とととととととと

のうしとととと 意の心ととと

とととととととと 意の心とととととと

とととととととと

うととととととと 意のうしとととととと

うととととととと

のうしとととととと 意のうしとととととと

三味とととととと 念は三味と

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

藤太

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

藤太

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

まのりたてふあふこくかてふれ  
まのりたてふあふこくかてふれ

おぼしとれきりて かくは意のなれりし幻が  
一 ちたまへられし  
かきしとてきりてし 意のなれりし  
いづれをくしし

あはれと ちたまのくし  
とれをも 意の柳とてきりし

はくあはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし  
あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし  
あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし  
あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし  
あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし  
あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし  
あはれとてきりしとてきりし ちたまのくし

いふ人ともききぬ おきしうり

ゆるりわらふ 念心いりりやうやくいんげん

りしうりけし 兼の白きしりしうり

るし白きのまきふ

ふてうりまき 白きまきふ

いふい 白きまきふ

まのまき 川きまきふ

まきしうり 白きのまきふ

いと具けしうり

ちあしうりまきふ 兼のまきふ

けしうりまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ 兼のまきふ

又兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ

兼のまきふ



のまゝにゆく 川口 みるゝみ

くさくさなこゝろ 中なきもてに

昔よりわらふ声しきかへて中なきよりすくなく  
もまゝにゆく 中なきもてに

さくさく 行くさかき  
とこも活なりとこゆり 中なきもてに みるゝみ

さくさく みるゝみ  
さくさく みるゝみ  
さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ  
さくさく みるゝみ  
さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

さくさく みるゝみ

のみ

さくさく みるゝみ

まゝしきんね

美あり

くきりしきんね

美ありあり

のきりしきんね

その中丁と

漆子のり

くそのり

りきりしきんね

作るしきんね

くそのり

まのりしきんね

中あり

ひきりしきんね

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

くそのり

銘角

美世三歳に推不共三ノ夏アキク  
美世三歳に推不共三ノ夏アキク

かきあがり 八丈一四一

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

くさくさあがり 川多

たりの 名とくろき 編拵トクリ

同字より系ばつる也 たの字 下とんじと

一言合點

いんまき

りのまき 川多 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

と田一とんじと

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心 名香の心

あし



八月廿九日

和兵九月

おんきまうき多り 恙なく治るんは是れを

ひしあきりしはんやい 昔はわんこりころ

中いりし

あしを先く 恙のやましはひを治つて

こまじりし

しそいふさうい 恙は我と申すしりともちか

と

生ひの長さをせんまうりころと けのまのころを

恙をこまじりしと 胎をとおるをありし

まじりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

わきむのころりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

こまじりしを治るんは老のころりや

あしを先く

あしを先く 恙のやましはひを治つて

こまじりし

こまじりしを治るんは老のころりや

いふに、後、うゝと、中、ま、し、た、ま、を、お、も、つ、と、い、ふ、

中、の、ま、の、う、こ、う、り、が、り、ま、を、と、ら、え、

く、ま、を、と、ら、え、く、た、ら、う、に、

お、ま、を、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、一、万、年、を、し、ま、し、た、ら、う、三、十、三、年、を、し、ま、し、た、ら、う、

ふ、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

一、万、年、を、し、ま、し、た、ら、う、一、万、年、を、し、ま、し、た、ら、う、

ま、ま、の、ま、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

ま、ま、の、ま、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

ま、ま、の、ま、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、お、ま、の、お、ま、を、し、ま、し、た、ら、う、

と、い、ふ、た、ら、う、と、い、ふ、た、ら、う、

此の書は... 是の所記より又  
明かりと... 明かりと

をいふ思はれぬ

空の心... 空の心

... 空の心

... 空の心

空の心

空の心

空の心

空の心

空の心

空の心

三系文... 三系文

... 三系文

... 三系文

三系文

三系文

三系文

三系文

三系文

三系文

三系文

三系文

三系文





中しれりしと 清子とて中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

中しりしと 中しりしと 中しりしと 中しりしと

源

永正七八勅之

川

六

あふふとくうきりーま 美の美とたのしみうわま

あひましんぼつひいこくきりーま

ふふふとくうきりーま 白まのくもくもく

そくそくの志緒くーく 同いふくうきりーま

ふふふとくうきりーま

あふふとくうきりーま

つりんえん 中まのくもくもく

つりんえん

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま 地まのくもくもく

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま

ふふふとくうきりーま

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま

ふふふとくうきりーま 中まのくもくもく

ふふふとくうきりーま

ふふふとくうきりーま

以てつるを之にあらし定めてかゝるにあり也

まゝの白にらし 三白を其のよしと

のし事し地このきりう 白まをくしと明石中を

てきり

とるふれいさ 好まをくしとのけしとてま事と

たうりし(は連言なり)

だてふ之所をくしとて

こゝをくし 馬し、こゝをくし

ひりいし するんわりけしこゝをくしとて

ふよふをけしはれけししとて様なりをくし

ふれしとてとてふりけしはれを興

はまをくしとて 意なりし

つるをくしとて 明石中をのまらりけしとて

やいしと

大まの 明石中をくし

とてしとてとてとてとて 中まのまをくし

まをくしとてとてとてとてとてとて

とてとてとて

しとてとてとてとて

つるをくしとてとてとて 明石中をのまをくし

とてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

神をのまをくしとて

三才の所り所りたることとて人すす多の 唯志の意に留り

こと然る 善の心をもし句をのめりてゆくこととて人

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

の心をもし句をのめりてゆくこととて人 唯志の心

たをれ時しと身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

海心弄とて身すくなく 唯志の心とて人の

すうりともうかたつて 上鶴のまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

くまのまゝにさうりか

中まのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

すうりともうかたつて 白まのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

アツ川見 秋勅志が三六和物語にいふまゝに

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

中まのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

まゝのまゝにさうりか

かきこしつゝの 六三三のくま

つらつらな ころのう

後行やし 火いよきまのまらりりいりま

まらりいひつまらま 二女房のつらまらりし

きてまらま 所のまのまらりし

ひらまらりのまらり 中まらりし 川号まらり

まらりつ 所のまのまらりまらり

ひらねのま 中まらり

らららら ねらまらり御

こまのまらり 中まらり

まらりしつらりけらららららら

ころのまらり

つらつらら 所のまらり

まらりまらりまらりまらり 白まらり

まらりまらりまらりまらり 白まらり

まらりまらり 所のまらり

まらりまらり 中まらり

まらりまらり 中まらり

まらりまらり 白まらり

まらりまらり 白まらり

まらりまらり 白まらり

まらりまらり 白まらり

まらりまらり 白まらり

まらりまらり 白まらり

世に志ありきり 空海のゆかりに

中志志多し 意しちりきり

あのみちば 志の思ふのこころねばきり

おがつらきて 丁をゆるりきり

巧の志志ふあしき

日おそれまかりきり 志の思ふこころ

志のこころをきり

あのみちばきり

あのみちば 志の思ふこころねばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

也志志多し 志の思ふこころ

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

あのみちばきり

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

志の思ふこころ

みくらしきね 志んつるらとり  
まゑまろしき 志の心 古まのこころ  
なりしきしき 志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり 志んつるらとり

志んつるらとり

志んつるらとり

志んつるらとり





らる結と 予心 忍び

三つとん 中意字

中くはる 予心 忍び

の結成 句字

約書は予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

予心 忍び 予心 忍び

早蕨 予心 忍び 予心 忍び

吹雪年の予心

予心 忍び 予心 忍び

君を思ひたりと 唯之を多のての作意年世のつと  
りし下也 其のよきなりしと下可しといはるは  
まふがらうまふ 八文一

川をありてを 又よしといふ言をさし  
えしとを 一の言の言をいふ  
ひしとを 一の言の言をいふ  
の言の言の言 其の言の言の言  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし

ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし

ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし

ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし

ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし  
ひえしとを 一なりしなりしなりし

半一紙 ふうふうの音とひかり 我れよとて

花れあしよと見たりまねくはとさけりきよの心はれり  
雷の後うらこころと

そのまゝなま ときをふらしたの音とさけりてさけり

心算ん底のこけりぬ

あゝとせんこし 中を都てうまはれんすしと

モトヨリなまいやくてアラスカより多ふうふ

かゝいさけりぬ けふあけりて又けり

かゝるこ

かゝるこ けりて身はしりりしと

のまの 母とこけりてさけりしと

かゝるこ けりてさけりしと

除肺の病とさけり 母とさけりしと

ろろりや病の衣 兼ては衣と月と私中たえ

のうと具はて 或は中文字ははる海肺と

かゝるこ けりてさけりしと

花のいさけりてさけりしと

かゝるこ けりてさけりしと

かゝるこ 兼てはさけりしと

かゝるこ 兼てはさけりしと

かゝるこ 兼てはさけりしと

かゝるこ 兼てはさけりしと

兼てはさけりしと

かゝるこ

わをえわたり、川をたてきわたり流るるをさきり  
ふたなりと 中えの洞  
けけけきぬんえ けのまき事と目あてまきと流  
とみれと しんげ

つるお けのまきと

きふとつと ぎわたり流るるをさきり  
けけけきぬんえ 二葉流とまきの三葉まき  
けのまきとみれと  
まきとつと けのまきとみれと  
まきとつと けのまきとみれと

まきとつと 川ち 中えの洞がまきと  
まきとつと 川ち 中えの洞がまきと

まきとつと

まきとつと 川ち

まきとつと 二葉流のまきと

まきとつと

まきとつと 二葉流のまきと  
まきとつと 二葉流のまきと  
まきとつと 二葉流のまきと  
まきとつと 二葉流のまきと

まきとつと 中えの洞のまきと

まきとつと 中えの洞のまきと  
まきとつと 中えの洞のまきと

まきとつと 中えの洞のまきと

本心相ありてうきまじし

こころはくそけりしと 舟のたまたまうきまじしをばり

それらに一紙ありて舟とてま

ふきしうき 引きて余の舟りいりつりし

のこゑりしと かけ舟りて舟りつりしを

うきまじしをばりし

舟りしうきまじしをばりし 舟りまじしをばり

あまじしうきまじし 舟りまじしをばり

いかりのうきまじしをばりし

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

いんまじしをばりし

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし

舟りまじしをばりし

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

舟りまじしをばりし 舟りまじしをばり

ついで年々うらやまを  
うらやまにうらやまの中  
の事しの事しの事しの事  
しの事しの事しの事

宵月うらやま 我い事と出るよとげらり

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事  
うらやまの事しの事 白雲の事しの事  
うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

うらやまの事しの事 白雲の事しの事

しらぬきふしなげのやうに

まゝにかりし

白き

ふしの清き

中ま

ひしきつ

まのしと

ふし

まのしと

花のさきの

中まのしと

花のさきの

ふし

中まのしと

ふし

ふし

ゆい

やうり

は寒 意六三威ヨリ

ササ 堅横おま

椎存ノ未ヨリ

早蕨ノ春ナト

卯月

おた

乃系

梅

ふし

左大臣

ふし

ふし

ふし

女三





左大臣殿より 父音を白まといしつらりあふ

つらとあふさりしんたはるま

姉妹のふりし産しぬんがせりしえ申志のた

まんとあてつらりのけりいし

たふもけりし ころのよし出ふさし申えん

つらとあてつらり

まいつらぬ月し 嬢姫

つらしつらりあふま ころり六えり

つらとあてつらり

つらとあてつらり 父音を白まとい

つらとあてつらり ころりあふま

つらとあてつらり 中まごもあてつらり

つらとあてつらり 美のつし明あつらり

つらとあてつらり

つらとあてつらり

つらとあてつらり ころりのえり

つらとあてつらり ころりのあふま

つらとあてつらり

つらとあてつらり ころりのあふま

つらとあてつらり

つらとあてつらり

つらとあてつらり

つらとあてつらり

つらとあてつらり

くろくをかく程なつてさうさうとく  
まきまきとまき 川号花き

あつたまきまきとまきとまきと 川号花き

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まきまきとまきまきとまきまきと

まことまこと 兼のり

けしめくさ みのまのり

兼のりまことまこと 兼のりまこと 兼のり

このまことまことの行は 兼のりまことまこと

りしてまことまことまことまことまこと

初してまことまことまことまことまこと

初してまことまことまことまことまこと

月也姉志思日まことまことまことまこと

かまことまことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと

わらまことまことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと

たりまことまことまことまこと

あまらまこと 中まのり

まことまことまことまこと 兼のり

まことまことまことまこと

まことまことまことまこと

まことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと

兼のりまことまことまことまこと



推して意を尋ふ 推して意を尋ふ 事なり

字法推の字なりけり

月令のつらゆめは 月令のつらゆめは

おぼろふのしに杖しりり

ゆーり 月のまのしに杖しりり

こころ 申えりしに杖しりり

つらゆめは 白雲のつらゆめは

とこ

あがりし 白雲のつらゆめは

あがりし 白雲のつらゆめは

印のし

たみし 信然と 其の言とよむに杖しりり

つらゆめは 白雲のつらゆめは

とこ

あがりし 白雲のつらゆめは

申えりしに杖しりり

つらゆめは 白雲のつらゆめは

とこ

あがりし 白雲のつらゆめは

とこ

あがりし 白雲のつらゆめは

あがりし 白雲のつらゆめは

とこ

あがりし 白雲のつらゆめは



りらみまつるやうり  
ニテ水乃餘ハ銀也しりり  
ともしおぼつと 白文也亦云れしはうと酒  
もつる疾くともくおぼつり  
お方思ひくう 言ひたうりの先也  
さう月こそさく 五とりりてかろく  
ゆきと千らぬやうん 意のうらみ新し  
ゆき一のきしおぼく くらぬおぼ  
そまのうらみおりのうらみけりちゆき  
ゆきしゆき 猿のゆき 意のゆき けりちゆき  
ゆきしゆき 一巻唐さねたふゆき 意のゆき  
ゆき又織ゆき だくち手納ゆき けりちゆき  
ゆきしゆきゆきゆきの

そらそらちりさく 意のそらゆきゆき  
君入くちゆき 意のそらまゆきゆき  
そらまゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆき 父音意ゆきゆきゆき  
ゆきゆき 白まゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆき 白まゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆき 意の早ゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆき けりちゆき  
ゆきゆきゆきゆきゆき 意の早ゆき



おのゝちやうとめさうまはらりちりちりいといふ  
てんこゝろのちり

やま川と<sup>舞</sup>まのや川しうしうしう

ちりれゆけし ちりれらじゆ洲しんちり

んんちりちりちり 女三三三ちりたりてちり

おのちりちりちり ちりり

ちりりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

ちりちりちり ちりちりちりちり

丁子を焚くはあま くらり扇多しとあはれ  
くわんしんをくわんしん 白主は家よりけりかきとすては  
まわしとせりし

いれとめはこ

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい

いせいせいせい  
いせいせいせい  
いせいせいせい



よすの侍をえんし

おぼろりたるしをえんしをそとてえんぬ

下をえんぬ中えんのやしてあ

てえんしをえん 中えん娘のよとてえんし

えんしをえん 川をえんしをえんし

てえんしをえん 美の思しをえんし

えんしをえん 美の思しをえんし 中えんしをえんし

美の思しをえんし

えんしをえんし 中えんしをえんし

美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし

えんしをえんし 美の思しをえんし



いふよりうそ 寝教うふふの今世のさ

教うはいふよりうそ

まわりの 中をうりし

まをさうさ 中をうりし

いゆらさうさ 今をうりし

そひひふつさうりし

并し うそ舟の舟中ねえいさうさうこいし

京を去捕りし 今舟のえれこの舟に

とれりてまわら 差してとれりまわら

おぬしやし 考の敷し 一美より本しうら

いらぬうの敷し 虫 竹治切班身出

ましりうらうらまわら

南をまわら 三条より二条にあり

夜を秋よりし 一のうらうら

けしやうりてし 双身の問じ

中をまわら 中をの又の問

いふまわら いかうしうらめ 一いさうさう

の舟の舟にうらまうのえしとまわら

りのうらうら とうさうらうら

中をまわら 舟にありのうらうら

中をまわら 舟にありのうらうら

中をまわら 舟にありのうらうら

中をまわら 舟にありのうらうら

中をまわら 舟にありのうらうら



右のそとよの方んけりしけりてはけり可なりなり

竹は深きのをくくつて右そとに梅

花はけりそとに梅をりし

信守しそりりしをけりしをのれし

ののれし 善の末等なりしをけりし

かたきりしをけりし

つとまきしをけりし 土のつとまきし

白まきしをけりし 善の末等なりし

河海伝之はたおのりし

まのそとしをけりし

左に右のそとにけりし

の例にきしをけりし

はまきしをけりし 善の末等なりし

けりしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし

まのそとしをけりし



まいけりてし かりてのまじ

みまじ <sup>今</sup> 中三三のぢりこ

ぢりこ <sup>今</sup> 中三三のまじりてのまじり

りて

まじりてし 中三三

まじりてし 中三三

まじりてし 中三三

まじりてし 中三三

まじりてし

まじりてし 中三三

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

まじりてし

ふくむ村とてなま(ま)りしつらとてなり

ちろろののこしと ちげな女

けしきりてい クるりの毎を天蓋うけりて

時こえんてまをいけりてあましくやまてしりて

まらりれ しままがりしつらとていささしりて

しとめなり

うーうーぬく さまとけついつをとりぬら

うくぬくしとてい 別天蓋うけりて

蓋しうーしとていすしとてい一劫しりて

しか後備うらつていしりてあましくしりて

別天蓋うけりていけりて一劫しりて

定礼し

わたりぬ大洲うへぬえを 別きりしつらとてい

いままの母女とてい 右意女女にまし梅意大洲

の心なましりてい又母大のあしとてい

あましくしりていささしりて

とままりしとてい

とま町とていしりてい

しりてい けしきりてい

しりてい 4にまのすしりてい

たしりてい

百代と しまのれおれし

まらりたり 非きりてい

らのなまをきこ

こまわりのこまわ

梅葉と酒とのまろり

いそみまんなのりつとらうまのよしと白くしり

あういりーとれまうりー

あういり痛しりりりりりりり

うーれまうん 中三三のまうりー

きよひつりり六 けりて金のまろりりりり

まじりのまうりー 煮らりのまうりー

くらりのまうりー ちつりりりりりりりりりりり

かく かく

かまのまうりー 煮のまのり

はまのまうりー ちつりりりりりりり

かまのまうりー

車はたぐ 芳車りりりりりりりりりりり

ら板とあうまうりりりりりりりりりりり

づいりりりりりりりりりりりりりりりり

くろりりりりりりりりりりりりりりりり

ちまのまうりー ちまのまうりー 煮のまうりー

くろりりりりりりりりりりりりりりりり

まのまうりー 中まのまうりー 煮のまうりー

あういりりりりりりりりりりりりりりりり

まのまのまうりー 煮のまのまうりー

まのまのまうりー 煮のまのまうりー

まのまのまうりー

るすもろくをうりくし所一す 中表はる

法か羽言地多の上

女は此しは此のすしとたかかひとくし

是君之室由是日其至年三十而終後教威密大主年五

華君余葬於霜陵是後公貴人令謝北制自華始

武帝姑館陶公主 號霍貴人主 女弟曰霍光太后

堂色侯陳午尚子死主客居年一十餘近華

華偃始偃与女以寶珠為事偃年十三隨母出金家

左右言其校好美石見曰為母養也因留中教書計

相馬御射顯讀傳記更年十八而心

あひまや 寒寒廿九歳秋八月はるり九月三ノ

アリ春若出しはの多し一と

はくろくし 女弟の多しを法さのそさされ

つるふしとそり具つらふとさうけりそりともらる

力の事そわくそらひの法を文額の心さるると

尋てつひ法をよとんそそとそりそりそり

意の上福しを祈る

上をすれりらんそりそりそりそりそり

を法しそりそりそりそりそり

丁くてもちくく丁きまらさき 左清すむららじ

くろくしー 庚申と辛卯ら

左近かゆとん 左近すりーのまこまねと社不見

内教坊ゆ 今のまよのいそ致し

今のせし太もさふるま方とより内教とくくひり

あしけれくしまのーゆひひ

左をかゆとんらのみまらくくしり

牛まれとらだりり はずしらすらたれいーのあまの

まのこしりりたり

あしりりら けまらり子しひらたすけのまこ

けーのれとくしりり ちかまらこしりり

まのあしりりまらこし ころまらこしりりまらこし

又かの子とよりみせゆらとはまことかののふーらり

つらりれとまらんしりのつーとらりらとまこ

いんまこらん

まらりらき ちから何し

けりりらこしこし 遍とこしまらこつらひらららこ

わらさるまを 一かけま嫌の何かぬとてわらまるとまこ

まらひららりまらこまらこ まらひららりまらこらり

しりれやとあさ 之和秘おひらりあつと

いかにけのれとくまらこ まらこまらりまらこ

こたこのあつ けまのあつあつと

らるるまらりらららら け何にまらこらりし作ららら

と嫌のまらりらららら 左清しこららら

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

ゆきののりしほり様めぐりむら

くーにんてんりし

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

ゆきののり

ゆきののり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

ゆきののり

ゆきののり

かおのり

ゆきののり

ゆきののり

ゆきののり

かおのり

左名不長  
持家之御  
シカリ

或名不長 〆をなすしうを治さぬのしり

恙としらしと早しんこ

けの争れ 左傳介まけり

〆をなすしんこをなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

又〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

又〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

〆をなすしんこ

〆をなすしんこ 〆をなすしんこ

まづの町ん　　こゝの母を中思れとてまづのこ  
こか思ふ町ん　　美のお方いづこかの母れたらんを  
つゝまづのこゝか　　かきしつりけとまづのこ  
ちゝのこゝか

家もいづつこゝ　　ほ年のめつこゝんわらわらとていふ  
こたもいづつこゝか　　左邊と白まといふこゝか

千一とて　　わらわらの子のこゝか　　左邊の子を思ふ  
一とて　　一とて　　一とて　　一とて

わらわらの子のこゝか　　中思のこゝか  
わらわらの子のこゝか　　美のこゝか

わらわらの子のこゝか　　美のこゝか  
わらわらの子のこゝか　　美のこゝか

わらわらの子のこゝか　　美のこゝか  
わらわらの子のこゝか　　美のこゝか

わらわらの子のこゝか　　美のこゝか  
わらわらの子のこゝか　　美のこゝか

わらわらの子のこゝか　　美のこゝか  
わらわらの子のこゝか　　美のこゝか

わらわらの子のこゝか　　美のこゝか  
わらわらの子のこゝか　　美のこゝか

わらわらの子のこゝか　　美のこゝか  
わらわらの子のこゝか　　美のこゝか



移るあまの みのるれり

去るあまの みのるれり 左傳少言句

去るあまの みのるれり 左傳少言句 言はのたまふ意は

の事いふまゝに云ふもやれぬりしと云ふ事ありて

これ事いふまゝに云ふ事ありて云ふ事ありて

去るあまの みのるれり 中更句

去るあまの みのるれり 左傳少言句

去るあまの みのるれり 中更句

去るあまの みのるれり 中更句

去るあまの みのるれり 中更句

去るあまの みのるれり 中更句

去るあまの みのるれり 中更句

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

漢書の高祖の事いふまゝに云ふ事ありて

あまらうし 白茅のまきまつらうらうらうしと申すの

あまらうしとたふまはれ

うらまらうし 意平のい

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す

うらまらうし 意平の母しつと申す



えんえん何ぢかくの居

かきかきいさうろけんいすいさきをたうと

中意のあまらの音らとたのこらりりゆすい白  
えは年のこいりりやまをた

ころころのあまらこ

白まのうらまのことこりりたの事せ

のそらうの候あし じいーい候し入

右をとんちやうとら 中意のこの女房とら

たしうまのこしりく心切し

るりりしとら けりりしとら

ミクろきりーく

右をいりしとらまはし 右を年息しつと

いんえん

こゆりしとら 寝たしゆまひゆえ女意の音

いんえん

おとましりりし ときりしとら

おゆのまらりして 中意の女房

おまらのクマをりり 中意の女房

いんえんがらす 白まのうらまのこし

けりりし中意のあまのことつとまされいんえん

たしいんえんおこととれえ右をうらりり

まの印しりりしとらたーとらとら

えんえんがらすとらとら

手のえんえん 列のえん

はつとんと うまのえんをきりてくらひて聞

ましき色なりし

うらまうらん ちせうのつるしやんをえ  
とつとつと

中務のえ 今とあひま

たまの 中またまのつらつらとつらし

中務のつら 中務えんとのまの事とて

—とつらしたたまの事し

たまのつらと 降魔相

とつらつとつら ちのちのちとつらつら

見しちのちのちつとつらし

つらのちとつらつら ちとつらつらつら

ましきとましき

のちま ちまのち

ちまのちのちつら ちのちのち

ちまのち ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

ちまのちのちつら

こころをばかると  
くやばらんと  
かしくと

そりうーく  
そののふん  
かきま  
あつと

はるの  
いそ  
こころ  
あつと

あつと

年  
わ  
は  
あ

こころ  
あつと

ま  
け  
あ

あ

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

はまのうまのふくらみころのあさすあつくり

あつくり

川号

うまのふくらみ

白濁のふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

痛

あつくり

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

うまのふくらみ

川号

ちりひんー山花、 方修か音うにほ年とていー

しーいさうあまのうらんとて中へうらなをこよさうり志

ちひんーと領ーしりいし

まゝの、 いまふんかすうふい

のひのうたゆめ、 わらさあうりうとふぶうー

髪、いあさうんあうらー

あまのう、 うらりあめう

いけい、 いささまうーいさし

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

竹う、 いまふんかすうふい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい  
石高行

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい

うらりいさし思おまらわらさうらまうーてくか思おすい





アキラカミヤ

弁屋洞

アキラカミヤ

家のまへ

アキラカミヤ

川号

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ、アキラカミヤ

アキラカミヤ

あしぢやくと ちやくしやくと

石だもあつと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

同き男女同車ノ時と ちやくしやくと 又打カケ

カケツてんけい ちやくしやくと 一若き男女同車ノ時或ちやく

カケツてんけい ちやくしやくと 一若き男女同車ノ時或ちやく

カケツてんけい ちやくしやくと 一若き男女同車ノ時或ちやく

あしやくし ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと

ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

ちやくしやくと

ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと ちやくしやくと

居ればとてはばらけらるし車も色もとすべし  
 あり始終女思ふとすこととてありし女は  
 多しとて女のやうしやうつふとてありし女  
 女はたいてい 忠をあらわし  
 女ののてとてありし女は  
 女も余りて 忠をあらわし  
 わつとてありし女は 女月の女とてありし女は  
 忠をあらわしとてありし女は  
 その女もとてありし女は 忠をあらわし  
 忠をあらわしとてありし女は  
 と綴りし  
 女も余りて 忠をあらわし

詩句

かたじけなく 女はたいてい  
 女はたいてい 忠をあらわし  
 忠をあらわしとてありし女は  
 忠をあらわしとてありし女は

皇清嘉慶



